学校番号	１０３

令和２年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高校生の美術２」						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〇創造的なプロセスとして「表現すること」と「思考すること」は対としてひとまとまりであるという考えから、各自が表現するだけでなく、表現する主題・内容そして表現の方法について思考し議論する機会を多く持ちます。

〇現代社会は解が一つに定まらない、あるいは解のない複雑な問題にあふれています。そのような実社会に根差した問題を解決していく方法を美術的アプローチで探求していきます。グループのメンバー、教員、地域の方々などと様々な出会いやコミュニケーションを重ねるプロセスから感性をフル活用して自ら学び取ってください。物事の見方や、感じ取った事を表現する力。議論の進め方、他者への理解や共感、プレゼンテーション力など授業で磨かれていく資質は、その後の人生に大きく活かされる糧となります。学習の成果はさまざまな機会を通じて学内外公表され、連携団体や地域社会へフィードバックしていきます。

〇絵画、彫刻、デザイン、映像などを通して、自己の生成したイメージを創造的に表現したり、作品のよさや美しさ、作家の心情や表現意図を鑑賞できるなどの美術の諸能力を育成します。

2　学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心･意欲･態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	課題に興味を持ち、内容を理解し、意欲的にコミュニケーションに参加している。 美術の創造・表現活動の喜びを味わい、多様な考え方、表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	直観を大切にしながらも、作品のどこからそう感じるか、その根拠を具体的に分析している。 感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	見聞きしたものをそのまま受け取るのではなく、客観的・分析的に捉えることでひとつの物事から多種多様な表現の方法を導き出せる。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品等の表現の工夫や美術文化等を理解し､そのよさや美しさを創造的に味わっている｡なんとなくみるのではなく､意識をもって､隅々までみることができる｡自分の解釈を導きだし他者の意見を受けてさらに思考を巡らせ新たな解釈を構築する。
評価方法	制作の様子 ワークシート 鑑賞活動やグルー プワークの様子 自己評価・相互評価	ワークシート アイデアスケッチ アートジャーナル 合評会での発言内容 制作途中の作品､作品	制作途中の作品 ワークシート 合評会での発言内容 作品 自己評価・相互評価	観察、ワークシート 鑑賞活動やグループワークの様子 合評会での発言内容 自己評価・相互評価

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	美術って何だろうⅡ	【鑑賞】【絵画・彫刻】 **◇オリエンテーション** 何ができるようになるか ・人が気づかない魅力や美しさ、面白さや問題を発見する観察力を磨く。 ・物事を様々な角度から観察し、考えることができる。 ・0から1を生み出せる。 ・自分一人でできないことは、ネットワークで解決できる。 ・できない理由よりも、「どうやったらできるか？」を考えることができる。 何を学ぶか ・教科書等を鑑賞し、多様な表現方法を学び、「美術Ⅰ」の学習イメージを持つ。 ・言葉やあらゆる表現方法を駆使し、自分の思いや考えを的確に表現する方法。 ・多様なアイデアや情報を積極的に取り入れ、シナジー効果を発揮する。 どのように学ぶか ・アクティブラーニング（知識の伝達だけでなく、生徒がお互いに刺激を与えながら主体的に学習するスタイル） 社会と美術とのかかわり ・美術によっていかに社会を活性化できるかを、表現や事象を時代に結び付け、考える。 **◇クロッキー** 鉛筆の削り方、持ち方、画面構成等、クロッキーの基礎を学ぶ。	◎ ◎	○	◎	○	a：多様なアイデアや表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。積極的にコミュニケーションに参加している。自分の解釈を導きだし他者の意見も興味を持って傾聴し、さらに思考を巡らせ新たな解釈を構築する姿勢がみられる。 b：美術作品などのよさや美しさ、コンセプトを感じ取り、思索し、美術の働きや文化歴史についての理解を深め、自らが経験した学習の過程を他者と共有するなど、ピア・ラーニングが実施できている。 d：美術作品等の表現の工夫や美術文化等を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。 c：想定クロッキーの目的を理解し、鉛筆の特性を生かして表現している。また、対象をよく観察し、形態の特徴をつかみ、構成や視点などを工夫している。	学習活動の様子 鑑賞活動の様子や発言内容 グループワークの様子 ワークシート 制作の様子 作品

一学期	対話型鑑賞Ⅱ	【鑑賞】 ◇VTS（Visual Thinking Strategies） アートを通じて鑑賞者／学習者の「観察力（みる）」「批判的思考力（考える）」「コミュニケーション力（話す・聞く）」を育成する教育カリキュラム。 一方通行の情報提供ではなく鑑賞者が自分の思考を通して作品を理解することを促すために、鑑賞者同士のディスカッションが主体。 ◇ブラインド・トーク ディスクリプション（言葉で作品を描写すること）のトレーニング。目隠しをしたバディーに、客観的事実の丁重な記述と、それに基いた創造的な解釈で、どのような絵が描かれているのかを説明する。 ◇ACOP(Art Communication Project) 「みる・考える・話す・聞く」という、通常、私たちが持っている４つの能力を駆使して、鑑賞力を養うだけでなく、観察力、批判的思考力、言語能力、コミュニケーション能力、セルフ　エデュケーション能力といった総合的な「生きる力」を育む。	◎ ◎	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	a: **本課題に興味を持ち、内容を理解し、意欲的にコミュニケーションに参加している。** ⇒自分の解釈を導きだし他者の意見を受けてさらに思考を巡らせ新たな解釈を構築する。他者との相乗効果を通じて新たな価値を生むことができる対話型鑑賞及びコミュニケーションを目指し、授業に参加しているかどうか。 b: **直観を大切にしながらも、作品のどこからどう感じるか、その根拠を具体的に発言している。** ⇒何故自分はそう感じるのか、作品のどこからそう思うのか、根拠をもって論理的に説明することが出来る。また、その理由・根拠が妥当かどうかも検討しているかどうか。 c: **見聞きしたものをそのまま受け取るのではなく、客観的・分析的に捉えることでひとつの物事から多種多様な解釈を導き出せる。** ⇒複数の解釈を得たのち、どれか一つを選択するだけでなく、異なる解釈を擦り合わせていこうとしているか。 d: **なんとなくみるのではなく、意識をもって、隅々までみることができる。** ⇒作品の視覚要素を的確にみれているか。作品の要素がみえてくることで解釈が深まるような、詳細な観察をおこなっているかどうか。	学習活動の様子 鑑賞活動の様子や発言内容 グループワークの様子 自己評価 相互評価

一学期	プレゼンテーション「池高クリアファイル」の作成	【デザイン】【鑑賞】 ◇クリアファイルの鑑賞 ◇エスキース グループごとに目的やテーを決める。コンセプトに沿ったクリアファイルのデザインを各自で考える。 見聞きしたものをそのまま受け取るのではなく、客観的・分析的に捉えることでひとつの物事から多種多様な解釈を導き出す。 ◇「伝える」技術。効果的なプレゼンについて考察。 ◇アイデアの相互鑑賞 １人1分でプチプレゼン ◇それぞれのアイデアを活かしあい、グループ全員でエスキースを起こし、デザイン・制作・プレゼン準備を分担して進める ◇相互鑑賞・プレゼンテーション	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	 ○ ○ ◎	 ○ ◎ ○	◎ ◎ ◎ ◎	a: 生活や社会を心豊かにする美術の働きやデザインの目的や条件、機能や用途などを考えて表現することに関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 b: アピールする事物などデザインの目的、機能、美しさなどから主題を生成し、描画材や表現形式の特性、形や色彩などの働きを考えて表現の構想を練っている。 c: 目的や意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。 d: 作者の意図や表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取り、生活や社会を心豊かにする美術の働きや作品などついて理解を深めている。自分の解釈を導きだし他者の意見を受けてさらに思考を巡らせ新たな解釈を構築する。他者との相乗効果を通じて新たな価値を生むことができるコミュニケーションを目指し、授業に参加しているかどうか。	ワークシート エスキース グループワークの様子や発言内容 発表の様子 制作の様子 制作途中の工夫や作品 作品 鑑賞ワークシート 作品

二学期	ディベート「自主・・自律・池高自治会活動」池田高校30秒CM	【映像メディア表現】 【鑑賞】 ・池田高校の「 自主・・自律・貢献 池高自治会活動 」について」ディベート 〈ディベートを通して、互いの考えを深めながら、話し方聞き方について学ぶ。〉 ・大学等のCM鑑賞 ・ディベートから感じ取ったこと、自己の考えを踏まえてエスキース作り。 ・部活動・自治会活動・語学研修等、アピールしたいテーマごとにグループになり、各自エスキースプチプレゼン。グループでアイデアを再構築してアイデアスケッチ(絵コンテ)を作成する。 ・班で協力してカメラで撮影をする。 ・コンピューターで編集を行う。 ・相互鑑賞 プレゼンテーション	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	 ◎ ○ ○	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	a:目的を基に写真やコンピューターなど映像メディアの特性を生かして表現することに関心をもち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 b:映像メディアの特性を踏まえ、目的を基に主題を生成し、視点や動きなど視覚的要素を工夫して表現の構想を練っている。 c:カメラやコンピューター、プロジェクターなどの様々な用具の特性を理解し、効果的な表現方法や編集を工夫して表現している。 d: 相手の考えを踏まえて自分の考えを説明したり、考えを相対化したりして話し合おうとしている。 映像メディア表現の特質や視覚的効果を生かした独自の表現効果などを感じ取り、作品の主題や作者の表現意図、効果的な表現の工夫など を読み取り、作品や作者について理解している。	ディベートの様子や発言内容 発表の様子 制作の様子 ワークシートアイデアスケッチ 制作途中の作品 鑑賞活動の様子や発言内容 作品

三学期	ディスカッション「SDGｓより　私が世界のためにできること・したいこと」油画	【絵画・彫刻】【鑑賞】 ・グローバル化する社会の現状を知り、「経済・環境・食糧・資源」など我々の日常生活に身近なものごとを通じて、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかをえ、多様性を受容しつつ、自己の価値観を伝達・浸透できる能力を養う。グループディスカッション。 ・ディスカッションを通して見えてきた、自己の内面や取り巻く状況などから主題を生成する。 ・主題を基に構想を練る。 ・構想を基に自分の表現意図に合う表現方法を工夫する。 ・主題を追及し、表現を深める。 ・他者の作品から、作者の主題、意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り、理解する	◎ ○ ○ ◎ ◎	○ ◎ ◎ ○ ○	 ◎ ◎ ◎	◎	a:テーマを基に自己の内面を見つめて表現することに関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 b:テーマを基に感性や想像力を働かせて、自己の内面を見つめて感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、表現形式の特性を生かして、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 c:意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追及して表現している。 d: 課題を見い出し、その解決をめざして思考を深め、判断・表現する姿が見られる。他の生徒の作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、作品などについて理解を深めている。	ディスカッションの様子や発言内容 ワークシート エスキース 制作の様子 制作途中の作品 鑑賞活動の様子や発言内容 作品

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　　b:発想や構想の能力

c:創造的な技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。